

作成日 2018/07/12  
改訂日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	作業着用洗剤 液体タイプ
製品コード	グループコード191835
供給者の会社名称	株式会社MonotaRO
住所	〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当部門	商品お問合せ窓口
電話番号	0120-443-509
FAX番号	0120-289-888

### 2. 危険有害性の要約 GHS分類

健康有害性	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1 発がん性 区分2 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(肝臓) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(気道)
環境有害性	水生環境有害性(急性) 区分3 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

### GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H318 重篤な眼の損傷 H351 発がんのおそれの疑い H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い H371 肝臓の障害のおそれ H373 長期にわたる、又は反復ばく露による気道の障害のおそれ

注意書き  
安全対策

H402 水生生物に有害

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)

取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)

環境への放出を避けること。(P273)  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)

応急措置

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。(P308+P311)  
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)  
直ちに医師に連絡すること。(P310)  
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)

保管

施錠して保管すること。(P405)

廃棄 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報  
化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩	23.000%	不明	不明	不明	不明
脂肪酸アルカノールアミド		不明	不明	不明	不明
ポリオキシアルキレン アルキルエーテル		不明	不明	不明	不明
ジエタノールアミン	6.000%	(HOCH <sub>2</sub> CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> NH <sub>2</sub>	(2)-302,(2)-	既存	111-42-2
キレート剤		不明	非公開	不明	非公開
サチライシン		不明	不明	11-(2)-226,11-(2)-227,11-	9014-01-1
防腐剤		不明	不明	不明	不明
水	71.000%	不明	不明	不明	7732-18-5

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置  
吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚を速やかに洗浄すること。

医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

直ちに医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置  
消火剤

大火災:散水、噴霧水、一般の泡消火剤。

大火災:散水、水噴霧、通常の泡消火剤。

小火災:粉末消火剤、二酸化炭素、散水。

大火災:粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水。

小火災:二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤。

大火災:散水、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤。

粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、砂。

粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、一般の泡消火剤。

周辺火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。

この製品自体は、燃焼しない。

周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。

棒状注水。

使ってはならない消火剤

特有の危険有害性

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。

大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。これが不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。

容器内に水を入れてはいけない。

消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

消火を行う者の保護

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外は近づけない。

風上に留まる。

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

低地から離れる。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

環境中に放出してはならない。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水溝及び排水系及び大量の水に流入することを防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

危険でなければ漏れを止める。

蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。

クロロシランはAFFF耐アルコール性中性発泡消火剤を使い蒸気発生を抑える。

物質を固化して掻き取る。

本製品は水に浮かぶため火災の危険がある。可能ならば、浮いている製品を封じ込めるよう努める。

除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。

蒸気は水噴霧で制御できる。液体が蒸発して更に多くの蒸気を発生させるため、水流はその液体の方に向けないほうがよい。

水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。  
少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。

少量の場合、漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、プラスチック容器に入れゆるく覆いをし、後で廃棄処理する。

乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

物質を吸込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。

不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学用品廃棄容器に入れる。

掬い取るか、適切な吸収材によって水表面から除去する。分散剤を使用してはならない。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

容器内に水を入れてはいけない。

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

滑らかな滑りやすい表面を床上に形成するので、完全に取除くこと。

## 二次災害の防止策

### 7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

排気用の換気を行うこと。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

環境への放出を避けること。

『10. 安定性及び反応性』を参照。

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管場所には、危険物を貯蔵し又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設定を設ける。

『10. 安定性及び反応性』を参照。

酸化剤から離して保管する。

特に技術的対策は必要としない。

施錠して保管すること。

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

### 保管

接触回避

衛生対策

安全な保管条件

安全な容器包装材料

消防法で規定されている容器を使用する。

国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

### 8. ばく露防止及び保護措置 設備対策

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

高熱取扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

高熱取扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、換気装置を設置する。

高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは換気装置を設置する。

特別な換気要求事項はない。

本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。

保護具	呼吸器の保護具	必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。 適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	必要に応じて個人用保護手袋を使用すること。
	眼の保護具	眼の保護具を着用すること。 化学飛沫用のゴーグル及び規格にあった顔面保護具を着用すること。 安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	顔面用の保護具を着用すること。  必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状態	液体
	形状	液体
	色	茶褐色透明
臭い		データなし
臭いのしきい(閾)値		データなし
pH		10.3
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		データなし
引火点		引火せず
蒸発速度		データなし
燃焼性(固体、気体)		データなし
燃焼又は爆発範囲	下限	データなし
	上限	データなし
蒸気圧		データなし
蒸気密度		データなし
比重(密度)		1.05
溶解度		水と任意の割合で混合する
n-オクタノール／水分分配係数		データなし
自然発火温度		データなし
分解温度		データなし
粘度(粘性率)		250mPa・s
動粘性率		データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の条件では安定
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触を避ける
避けるべき条件	現在のところ有用な情報なし
混触危険物質	ハロゲン類、強酸類、酸化性物質と接触しないように注意する

危険有害な分解生成物

現在のところ有用な情報なし

11. 有害性情報

急性毒性

経口

急性毒性推定値が $2300\text{mg/kg}$ のため区分5に該当。  
JIS Z 7252に採用されていないため区分5から区分外に変更。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。

経皮

急性毒性推定値が $5000\text{mg/kg}$ 超のため区分外に該当。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。

吸入

(気体)  
GHS定義による気体ではない。

(蒸気)  
データ不足のため分類できない。

(粉じん・ミスト)  
データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

眼区分1の成分合計が6%のため、区分1に該当。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

(呼吸器感作性)

データ不足のため分類できない。  
(皮膚感作性)

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。

生殖細胞変異原性

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分外から分類できないに変更。

発がん性  
生殖毒性

区分2の成分が6%のため、区分2に該当。

(生殖毒性)  
区分2の成分が6%のため、区分2に該当。

(生殖毒性・授乳影響)

データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

区分1(肝臓)の成分が6%のため、区分2(肝臓)に該当。

※区分2(呼吸器系)は6%含まれる。

※区分2(腎臓)は6%含まれる。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

区分1(気道)の成分が6%のため、区分2(気道)に該当。

※区分2(肝臓)は6%含まれる。

※区分2(血液)は6%含まれる。

※区分2(腎臓)は6%含まれる。

吸引性呼吸器有害性

動粘性率が不明のため、分類できないに該当。

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)

(毒性乗率  $\times 100 \times$  区分1)+(10  $\times$  区分2)+区分3の成分合計が60%のため、区分3に該当。

水生環境有害性(長期間)

(毒性乗率  $\times 100 \times$  区分1)+(10  $\times$  区分2)+区分3の成分合計が6%のため、区分外に該当。

毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。

オゾン層への有害性

データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意  
 残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

強アルカリ性であるため、酸で中和した後処理すること。

強酸性であるため、アルカリで中和した後処理すること。

水溶液は、強アルカリ性を示すため酸で中和した後処理すること。

水溶液は、強酸性を示すためアルカリで中和した後処理すること。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。

本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

高圧ガスを廃棄する場合は、高圧ガス保安法一般高圧ガス保安規則の規定に従うこと。

火薬類を廃棄する場合は、火薬類取締法、火薬類取締法施行規則の規定に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

高圧ガスの容器を廃棄する場合は、製造業者等専門業者に回収を依頼すること。

スプレー缶を廃棄する場合は、自治体により廃棄方法が異なるので該当する自治体の規定に従うこと。

14. 輸送上の注意  
 国際規制

海上規制情報  
 Marine Pollutant  
 Transport in bulk  
 according to  
 MARPOL  
 73/78,Annex II ,and  
 the IBC code.

非該当  
 Not applicable  
 Not applicable

国内規制

航空規制情報  
 陸上規制  
 海上規制情報  
 海洋汚染物質  
 MARPOL 73/78 附  
 属書II 及びIBC コー  
 ドによるばら積み輸  
 送される液体物質

非該当  
 非該当  
 非該当  
 非該当

緊急時応急措置指針番号

航空規制情報

非該当  
 なし

15. 適用法令	
化審法	優先評価化学物質(法第2条第5項)
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)
海洋汚染防止法	ジエタノールアミン(政令番号:219)(1%-10%) 有害でない物質(施行令別表第1の2) 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法	輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」
特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法)	輸出貿易管理令別表第1の16の項 輸出貿易管理令別表第2(輸出の承認) 廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)
16. その他の情報	
連絡先	情報なし
参考文献	製造元メーカー提供資料 NITE GHS分類結果一覧 JIS Z 7252 GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z 7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
その他	経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス 日本ケミカルデータベース(株)SDS作成システム「ezSDS」により作成。 危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。